

1. 文学部・文学研究科

(1) 文学部・文学研究科の研究目的と特徴	1-2
(2) 「研究の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	1-8
【参考】データ分析集 指標一覧	1-9

(1) 文学部・文学研究科の研究目的と特徴

本学部・本研究科（以下「本研究科」と表記）の研究目的は、次のことにある。

- 1 京都大学創立以来の自由の学風を継承し、人間の諸活動の原理的な解明とその諸活動が有する価値を問い直すことを通じて、思想・言語・文学・歴史・行動・現代文化の各分野の学術を発展させる。
- 2 人文学における世界最高水準の研究を推進し、その成果を通じて人類の調和ある共存に貢献する。

この目的を達成するため本研究科は次のような特徴をもつ研究をおこなっている。

第一は、学内・国内そして国際的な連携である。日本学・アジア学分野で優れた実績をあげてきた人文科学研究科の一定数の教員を多元統合人文学という協力講座に配置し、本研究科教員と連携して多元的・総合的な研究活動を推進している。また附属教育研究施設である文化遺産学・人文知連携センター及び内部組織として設置しているアジア親密圏／公共圏教育研究センター、応用哲学・倫理学教育研究センターにおいて、国内外の研究者間の研究拠点を形成している。さらに、海外の学術機関・大学等との交流協定の締結や大型外部資金の獲得などにより、共同して学術の高度化と活性化を行っている。

第二は、現代アジアが共存・共生していくための日本学・アジア学の世界的拠点の形成の活動である。本研究科は日本学・アジア学分野における世界最高水準の研究実績、歴史的伝統をもつ京都の地の利、卓越した所蔵研究資源を活用しながら、従来の研究のさらなる発展を図るとともに、新たな学術分野の創出にも取り組み、総合的な研究を推進している。

第三は、特定の地域に限定されない研究分野（哲学など）及び日本・アジア以外の地域研究（西洋学など）での高度な研究の展開であり、全体としての我が国の社会の課題解決・文化の発展への貢献である。

第四は、新しい価値観の創出をめざす研究活動である。とりわけ2019年に、文化遺産学・人文知連携センター内に新たに開設された人文知連携拠点は、研究科の専門知を、研究科内だけでなく、学内諸部局、さらには他大学や海外の研究機関と連携して研究を進めることにより、新たな総合知を融合し、人類に共通する新しい共通の価値観を創出することを目指している。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 5201-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 5201-i1-2）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2019年4月には文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（羽田記念館）と文化財総合研究センターを再編・統合を実現し、文化遺産学・人文知連携センター（CESCHI）の設立に至った。この組織再編は、人文学の多分野を横断する研究の可能性を大きく広げることを目的とする。すでに2019年9月には設立を記念するシンポジウム「文化遺産でつなぐ人文知—京都からユーラシア世界へ、原始から未来へ—」を開催（参加者数70名）し、新たなネットワークを活かした研究活動を本格的に始動している。[1.1]
- ・ 別添資料 5201-i1-3 文学部・文学研究科 HP／文化遺産学・人文知連携センター（2019年度）

<必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 5201-i2-1～10）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 5201-i2-11～12）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年に文部科学省から「指定国立大学法人」の指定を受けたことを踏まえて、文学研究科、人間・環境学研究科、人文科学研究所の3部局が協議を行い、2018年度より新たに京都大学人文学連携研究者制度を設けた。本制度は、研究科の教員が人文・社会科学に携わる研究者を幅広く研究者として受け入れる制度で、研究ネットワークの裾野を広げるとともに、人文学研究を推進することを目的とす

京都大学文学部・文学研究科 研究活動の状況

る。2018年度には4名、2019年度には3名を受け入れた。共同研究のテーマは、「自己に関する哲学・哲学史的研究」「現代アフリカ社会におけるレイシズムとコロニアリズムの表象ーローズ像・ガンジー像の撤去運動から」など多様で、いずれの研究においても文学研究科教員と連携研究者が繰り返し討議を行いながら研究を進めることで共同研究の効果を最大化する取り組みを行っている。その成果の一部はすでに、国内外の学会での口頭発表、論文の執筆、著書の刊行等につながっている。[2.2]

- ・ 別添資料 5201-i2-13「文学研究科における京都大学人文学連携研究者受入要項」及び「京都大学人文学連携研究者制度について」

○ 2018年10月に指定国立大学法人の課題「人文・社会科学の未来形発信」に対応するため設置された人社未来形発信ユニットを活用し、文学研究科内における研究活動を活性化させた。同ユニットは、文学研究科をはじめ、教育学研究科、経済学研究科、人間・環境学研究所等多数の文系部局から構成されており、国際シンポジウムやセミナーを通じ学際的・部局横断的研究を推進している。同ユニットのユニット長には文学研究科の教授が指名され、編集委員として6名の教員が参画するほか、ユニットの事業に積極的に参加し、文学研究科教員主催の研究集会等が2019年11月までに14回開催された。[2.1]

- ・ 別添資料 5201-i2-14 人社未来形発信ユニット活動実績（2019年度）【抜粋】

○ 2019年度に新たに設立した文化遺産学・人文知連携センターの人文知連携拠点では、学際研究の推進のため、2019年10月より分野横断型の共同研究班を募集し、30万円を上限に研究費の補助を行うこととした。この共同研究班には修士課程（ないし博士前期課程）以上の学生の参加も可能とし、学際研究の推進と合わせて若手研究者の育成も意図している。若手研究者には、研究会の開催等に積極的に関与してもらい、専門分野内外の研究者とのネットワーク構築の機会を提供する。2019年度は2つの共同研究班に研究費の補助を行った。[2.2]

<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（人文科学系）（別添資料 5201-i3-1）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

京都大学文学部・文学研究科 研究活動の状況

- 別添資料 5201-i3-1 が示すように、研究科全体を通じて着実に著書・論文による研究成果の公開が進んでいる。特に研究の最先端を報告する査読付き論文では、外国語による論文の数が日本語による論文を大きく上回っており（該当するすべての年度）、国際的な研究成果の発信が強く意識されていることがわかる。またこの点は、外国語で書かれた著書の数が増加していることから明らかで、中でも外国語による単著の出版点数が増えてきていることは注目に値する。比較的長期にわたる研究の蓄積をまとまった形で外国語で公表し、国際的な貢献につなげていく動きが着実に加速していると言える。

<必須記載項目 4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 25～40、43～46（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- （特になし）

<選択記載項目 A 地域連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学研究科の教員の多くが文化館・博物館・美術館等との連携による研究活動を行ってきた。期間中の文学研究科としての新たな進展としては、2017年度に京都府立京都学歴彩館と覚書を交わし、京都大学大学院文学研究科から歴彩館へ外国人若手研究者を推薦し歴彩館がこれを受け入れる体制を整備し、研究交流を開始したことを挙げるができる。

この他、文学研究科内の各研究室も、それぞれ関連の分野で地域に大きく貢献している。2016年度以降の事業の中からその具体的な事例の一部を挙げると、奈良国立博物館で客員研究員として研究協力（2016年度～2019年度）、芭蕉翁記念館（三重県伊賀市）における国文学文献および関連資料の調査（2016年度～2017年度、2019年度）、高山寺の調査および展覧会事業への協力（2016年度～2019年度）、彦根城博物館での井伊家伝来古文書の調査（2016年度～2019年度）、向日市埋蔵文化財センターとの連携による向日市妙見山古墳出土埴輪の整理作業（2018年度）、奈良県学芸政策顧問として英国大英博物館での海外展の監修（2019

京都大学文学部・文学研究科 研究活動の状況

年度)、など多数。[A. 1]

- ・ 別添資料 5201-iA-1 京都府立京都学・歴彩館と京都大学大学院文学研究科との
研究員候補推薦及び受入に関する覚書（日本語版）

<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 外国人研究者（招聘研究員・招聘外国人学者・外国人共同研究者）を世界各地から多数受け入れ、共同研究を推進している。その受入数は、2016年度は31名であったが、2017年度は49名、2018年度は62名、2019年度は53名となっており、若干の上げ下げはあるものの、全体としては増加している。国際的な共同研究が着実に進展していることがわかる。

またこれと連動する形で、文学研究科の教員が主催者の一人となって海外の研究者と連携し、国内外での国際研究集会や国際シンポジウムを開催する動きも進んでいる。2016年度～2019年度の事業の中からその具体的な事例の一部を挙げると、ザルツブルク大学での研究集会（“Historical Sociolinguistics”、JSPS 二国間交流事業、2016年度）、オックスフォード大学での研究集会（“Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World”、科学研究費、2016年度）、京都大学での研究集会（“Capitalism, Welfare State and Intimate Life: Toward a Theory of Human Reproduction in Mature Societies”、JSPS 二国間交流事業、2016年度）、オックスフォード大学での研究集会（“Practical Ethics Seminar”、上廣倫理財団日英大学交流プログラム、2017年度）、京都大学稲森財団記念館での研究集会（“Understanding Self and Its Interaction with Social and Physical Environments”、JSPS 二国間交流事業、2018年度）、パリ日本文化会館での研究集会（“La nature pense-t-elle? / Does Nature Think? / 自然は考えるのか?”（3か国語）、京都大学国際シンポジウム事業・ほか、2019年度）、国立慶州博物館（韓国慶州市）での研究集会（「金城の南山と平城京の東山 —王都周辺の山林寺院の日韓比較—」、科学研究費、2019年度）、など多数。[B. 2]

- ・ 別添資料 5201-iB-1 外国人研究者受入状況（文学部・文学研究科、2016～2019年度）

- 2019年5月にウッチ大学の科学研究担当副学長および駐日ポーランド共和国大

京都大学文学部・文学研究科 研究活動の状況

使館二等書記官等による文学研究科長への表敬訪問があり、研究活動の交流について意見交換を行った。同年10月にウイーン大学の歴史・文学部学部長による文学研究科長への表敬訪問があり、両大学で締結した戦略的パートナーシップ協定を基に今後の交流について意見交換を行った。[B.1、B.2]

<選択記載項目C 研究成果の発信／研究資料等の共同利用>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ (特になし)

<選択記載項目D 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ (特になし)

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

その研究テーマが、さまざまな現象や言説の単なる表面的な解釈や理解にとどまらず、人間の諸活動を原理的に解明し、さらにその諸活動が有する価値をも問い直すものであり、かつ、その研究分野の学術自体を高度に発展させる内容をもつこと、さらにその研究によって得られた成果が、人文学における現時点での世界最高水準に到達した研究と認められること、また、その成果が、我が国の社会の課題解決・文化の発展への貢献、さらには人類の調和ある共存に積極的に貢献するものであること、を評価基準とする。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- (特になし)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
	45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数
	46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数